組織評価報告書（平成２６年度）

部局名：　医歯学総合研究科

Ⅰ．教育

１．活動の概要

修士課程の医科学専攻では、医・歯学部以外の４年制学部や専門学校等の卒業生を受入れ、バイオメディカル研究者及び高度専門職業人としての医療人を育成する教育を行っています。平成 26 年度は 13 名が修了して学位を得ました。昨年度に入学定員を 10 名に削減した結果、本年度並びに次年度の定員を充足しました。修士課程の更なる充実に向けて、現在も授業科目の再編を行っています。

博士課程の健康科学専攻及び先進治療科学専攻では、国際的な評価に耐え得る生命科学や医学研究を計画・実施できるとともに、協調性と広い視野を備えて共同研究をコーディネートできる高いレベルの能力を持つ研究者、教育者及び医療人を養成することを目標としています。また、適切な倫理意識を身に付け、各種法令に対処するだけでなく、研究成果を社会に還元しようとする意識の習得も目指しています。平成 26 年度は、48 名が入学し、41 名が修了し、46 名が学位を取得しました。

２．特筆すべき取組や成果

①優れた点、特色ある点

・修士課程では、生命科学の基礎的な知識・技術の習得に加え、科学・医療倫理学、医療総合実習、離島医療学などの科目で特色のある教育を行っています。
・博士課程では、疾病予防及び先端医療技術の推進を図っています。
・地域に根ざした分野（国際島嶼医療学）の科目に加え、がんプロフェッショナル養成コースなど多彩な学習ができる体制を整えています。

②改善された点（又は今後改善を要する点）

・平成 25 年度入学者から修士課程入学定員を 10 名に削減し、本年度は 13 名が志願し、10 名が入学しました。今後も入学者の質の確保のために十分な志願倍率を確保する必要があることから、引き続き積極的な広報活動を展開していく予定です。
・博士課程では、新規科目開設や倫理関係授業科目の見直しを開始したことにより、以前より行き届いた教育及び指導ができる環境づくりの推進が見込まれます。

３．自己評価結果

○活動状況について

□Ⅲ　良好である。
■Ⅱ　おおむね良好である。（標準）
□Ⅰ　不十分である。

判断理由

修士課程では、パンフレット及びポスターを作成、配布するとともに、学内外の会場で計 3 回の入試説明会を開いて積極的な広報活動を行いました。また、修士課程の学生にきめ細かな研究指導を行うため、「先端バイオサイエンスコース」と「高度メディカル専門職コース」の 2 つのコースの充実を図っています。

博士課程では、従来医系分野の学生を想定して MD-PhD コースの設置を検討してきましたが、コースの対象を歯系分野の学生にまで拡大し、新たに鹿児島大学版 MD/DDS-PhD コースとしてコース設計を進めています。

組織評価報告書（平成２６年度）

部局名：　医歯学総合研究科

Ⅱ．研究

１．活動の概要

鹿児島大学医歯学総合研究科の強みであるニューロサイエンス分野における研究に関しては、世界的に有名なスウェーデンのカロリンスカ研究所と相互訪問を行い、大学間交流協定を結ぶ予定です。また、先進医用ミニブタを用いた前臨床研究の南日本拠点形成を目指した動脈硬化モデル大動物開発プロジェクトと難治性の慢性ウイルス疾患を対象とした医・理工連携による先端的発症予防・治療法確立を目指した基盤構築プロジェクトに関して、大型予算（特別研究経費）を獲得すると共に、コア研究にも選定し、さらなる研究の推進を図っています。がんへの革新的治療法である本研究科発の遺伝子治療技術は、本邦の大型プロジェクトに選ばれ高い評価を受けています。さらに、がんの臓器バンクの充実、ヒト由来組織ファイリングシステムの作製、口腔と全身との関連性を明らかにする研究、超高齢社会に対応した骨再生医療に関する研究、心身相関の立場から学際的な研究、悪液質に対する補完・代替医療の総合的研究などの先進的な研究も行いました。また、若手研究者を育成するために、平成 26 年 11 月 29 日に歯系若手研究者研究発表会を平成 27 年 1 月 28 日に基礎系研究発表会をそれぞれ開催し、優秀発表者を表彰するとともに、さらなる発展的研究の機会創出に努めました。そして、8 件のコア研究に対して、来年度よりさらなる支援を行うことになりました。

２．特筆すべき取組や成果

①優れた点、特色ある点

総額約 2 億 6 千万円の科学研究費補助金と総額約 1 億 6 千万円の厚生労働科学研究費補助金を取得して、島嶼、環境、食と健康の各コアプロジェクトをはじめ、国際的レベルの医歯学の研究プロジェクトが推進されています。特に、消化器疾患・生活習慣病学分野では、平成 23 年度から計 7 年間総額 20 億円の「研究成果展開事業（研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)）」の委託開発（創薬分野）が引き続き行われ、我が国を代表する研究拠点を目指しています。また、がん遺伝子治療の研究プロジェクトは、厚生労働省科学研究費補助金（3 年間総額約 3 億 4 千万円、平成 27 年度約 1 億 8 千万円）や文部科学省橋渡し研究加速ネットワークプログラムシーズ C（平成 27 年度 8 千万円）の助成を受け、来年度本学で世界初の医師主導治験を開始する予定です。骨再生医療の分野では文部科学省橋渡し研究加速ネットワークプログラムシーズ A に採択され、今後のシーズの展開が期待されます。さらに、8 件のコア研究を推進するための支援を行うと共に、スウェーデンのカロリンスカ研究所との共同研究なども推進する予定です。

②改善された点（又は今後改善を要する点）

共同研究を推進するために、平成 27 年度に医歯学総合研究科に所属する各分野やセンター等における研究業績及び研究機器等をまとめた「鹿児島大学大学院医歯学総合研究科研究分野紹介」を改訂し、さらなる共同研究の推進を図る予定です。また、平成 27 年度の学長裁量経費の学部等改革支援経費に 7 件、強み・特色強化支援経費に 9 件の事業を申請し、組織改革に取り組む予定です。

３．自己評価結果

○活動状況について

■Ⅲ　良好である。

□Ⅱ　おおむね良好である。（標準）

□Ⅰ　不十分である。

判断理由

この 1 年間に科学研究費や共同研究費などの外部資金を合計約 21 億 2 千万円獲得し、特許も国内特許 12 件、外国特許 9 件を取得するなど、各分野において、国際的レベルの先端的な研究が行われました。また、昨年度に引き続き、消化器疾患・生活習慣病学分野において、獲得した計 20 億円（総額）の外部資金による研究を継続すると共に、遺伝子治療・再生医学分野においては、複数の研究テーマが本邦の大型プロジェクトに選定され、平成 27 年度は約 2 億 6 千万円の競争的資金を獲得するなど複数の研究プロジェクトが大型予算（特別研究経費）を獲得して、我が国を代表する研究拠点を目指しています。

組織評価報告書（平成２６年度）

部局名：　医歯学総合研究科

Ⅲ．社会連携、国際交流等

１．活動の概要

・ 医学及び歯学の分野において、地域と関連する研究を含む受託研究を40件（総額約 5,400 万円）受け入れ、研究を行いました。
・ 研究科主催の市民公開講座を 1 件、市民も参加可能な講演会を 1 件開催しました。
・ 若手教員海外研修支援事業により、平成 26 年 6 月から平成 26 年 12 月まで、教員 1 名がドイツのベルリン大学法医学研究所にて研修を行いました。
・ 博士課程に「国費外国人留学生（研究留学生）の優先配置を行うプログラム」で受け入れた留学生が 11 名在籍しています。
・ 文部科学省「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」において、米国ベイラー医科大学に若手研究者 1 名が留学しており、現在、国際共同研究を進めています。

２．特筆すべき取組や成果

①優れた点、特色ある点

・受託研究の受入について、昨年度より件数で 6 件、金額で約 1,100 万円増加しました。
・海外の学術交流協定校との学生交流もコンスタントに行っており、短期留学生の受入を行いました。

②改善された点（又は今後改善を要する点）

・昨年度に引き続き、市民参加型の講演会「第 2 回鹿児島がんフォーラム」を開催しましたが、それ以外にもこのような講演会や市民公開講座を開催し、一般市民に対して医学・医療に関するさらなる啓発活動を進める必要があります。
・スウェーデンのカロリンスカ研究所と国際共同研究を進めるための相互訪問を行い、大学間交流協定を結ぶ予定です。

３．自己評価結果

○活動状況について

□Ⅲ　良好である。
■Ⅱ　おおむね良好である。（標準）
□Ⅰ　不十分である。

判断理由

・社会との連携については、地域と関連する研究を含む受託研究の受け入れが順調に伸びており、将来的にその成果が期待出来ます。
・国際交流については、留学生の受け入れや部局間学術交流協定の締結など、活発な交流を行っています。

組織評価報告書（平成２６年度）

部局名：　医歯学総合研究科

Ⅳ．業務運営

１．活動の概要

本研究科では、医歯学の研究者・教育者及び医療現場の高度専門職業人等の育成を目指した大学院教育を行うとともに、医歯学の研究を通じて地域レベルから世界レベルに至る諸課題を解決し、社会に貢献することを目標としています。適切な教育・研究環境を整備するため、研究教育組織の改編、教育課程の見直し、研究設備の整備、大学院生・研究者への経済的支援、セミナー・講演会等の開催による情報発信に努めてきました。

特に本年度は、昨年度に選定した研究科を代表するコア研究並びに有望な若手研究者に研究科独自の資金で経済的な支援を行いました。

２．特筆すべき取組や成果

①優れた点、特色ある点

・研究科独自の資金によりコア研究並びに若手研究者の経済的支援を行いました。
・第 2 回鹿児島がんフォーラムを開催し、最新のがん治療の情報を発信しました。

②改善された点（又は今後改善を要する点）

・研究科の建物耐震改修に合わせ、共同研究施設の整備及び新設分野に対して既設分野と同等のスペース配分を行いました。
・大学院生の確保を目指した鹿児島大学版 MD/DDS-PhD 制度の概要を定め、実施に向けて細部の検討に入りました。
・H26 年度教育研究プロジェクト支援経費を得て、本研究科、医学部、歯学部、附属病院の 4 部局連携で離島地域医療人育成をスタートさせました。
・教員、特に教授選考の迅速化を行いました。
・従来の先端医療研究・開発棟計画を根本から見直し、新しく「南九州先端医療開発教育センター」の構想をまとめ、概算要求を行いました。

３．自己評価結果

○活動状況について

■Ⅲ　良好である。
□Ⅱ　おおむね良好である。
□Ⅰ　不十分である。

判断理由

修士課程への目的別人材養成コース導入によりきめ細かい教育を行った成果で、平成25年度入学の12名全員が、最短修業年限で課程を修了することができました。

建物改修による教育研究環境の整備、独自資金による研究支援、プロジェクト予算の獲得などが計画通り順調に実施されています。